

北海道自家用新聞

発行所
北海道自家用自動車協会連合会
編集兼発行人 辻 澤 英 隆
札幌市東区北三ノ東一(郵便番号 060-0003)
電話 (011) 721-1457

「2026年あおり運転実態調査」

あおられた経験は36.3%

チューリッヒ調査

チューリッヒ保険がまとめた「2026年あおり運転実態調査」によると、5年以内にあおり運転を受けた運転手は36.3%だった。遭遇した際には52%が「道を譲った」など冷静に対応する運転手が多かった。加えて、自らの身を守る手段として、被害の状況を記録できるドライブレコーダーの利用率が69.7%にのぼることも分かった。

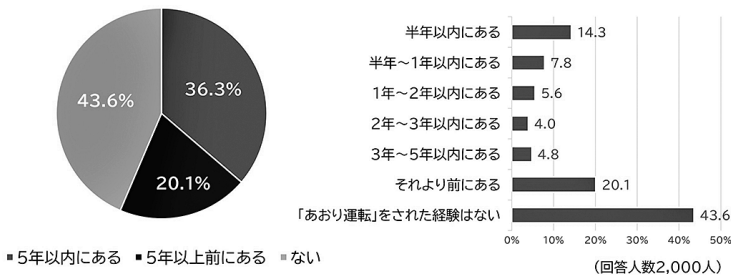
調査はインターネットを用いて、5月15〜22日に実施。全国の普通自

動車免許と自家用車を所有し、週1回以上運転している18〜69歳の男女2000人を対象とした。あおり運転を受けた状況や理由を聞くと、「制限速度で走っていた」など速度に関するものが多かった。被害を避けるための工夫として、「車間距離をしっかりと取る」という回答が、64%で最も多かった。万が一の備えとして、ドライブレコーダーは有効な手段になっている。導入済みの運転者の動機は、「事故やトラブルの発生時に自分が不利にならないように」が93.5%を占めたことから分かる。

また、ドライブレコーダーの普及によって、あおり運転が「減少すると思う」とみている運転者は、計60.0%だった。証拠の映像を残せるドライブレコーダーがさらに普及すれば、あおり運転の抑制にもつながりそうだ。

ただ、回答者の30%超がドライブレコーダーを付けていないのも実情。非利用者に理由を聞くと、55.5%が「機器の購入や取り付けに費用がかかるため」だった。一時はカー用品市場でも盛り上がりを見せたが、足元では落ち着いている。需要が一巡した中で、さらに普及を後押しするための課題が見えてきた一方、「設置を検討している」との意見も一定数あった。

あなたが運転しているときに、「あおり運転」をされた経験はありますか？



子どもの車内置き去り防止を啓発

親子向けイベントを開催

いすゞ

いすゞ自動車はいすゞプラザ(神奈川県藤沢市)で子どもの車内置き去り事故防止に向けた啓発イベントを開いた。子どもたちが車両のクラクションを実際に鳴らし、閉じ込められた際に合図を出す体験をした。自動車メーカーなどが協賛する「#たすけてプープロジェクト」の一環で、本格的な夏の到来を前に注意を呼びかけた。

幼稚園などの送迎バスに取り残された幼児が亡くなる事故が社会問題化している。乗用車でも幼児所への預け忘れの事故などが報告されている。園児の送迎バスでは置き去り防止を支援する「安全装置」の装着がいた。

ナンバープレートデザインのキャラクター啓発品を製作

北海道自動車標板協議会

北海道自動車標板協議会(竹内厳会長は、北海道内のナンバープレートにパッケージにデザインしたキャラクターを4000個製作した。道内7地区の自家用自動車協会などに

配布し、交通安全対策やナンバープレート普及の活動に役立ててもらう。

キャラクターの箱にナンバープレート10種類の図柄と「ナンバーが変わるとクルマがもっと好きになる」という標語、「交通安全」の文字を印刷した。

7地区の自家用自動車協会のほか、北海道交通安全推進委員会(真弓明彦会長)や道の交通安全協会など関係機関に配布し、啓発品として活用してもらう。

幼児も水筒やハンドルに乗りかかってクラクションを鳴らした



参加した横浜市泉区在住の男子(4)は「楽しかった。水筒を使わなくても押せた」と体験に満足気だった。父親(36)と母親(35)は乳児を抱きかかえて参加しており、「大人1人で子ども2人を車に乗せているときは、1人を乗せたまま車を離れるかどうか迷うときもある。改めて考える機会になった」と話

飲酒運転根絶！高校生メッセージ

(令和7年コンクール入賞作品から／北海道交通安全推進委員会)

(飲酒運転根絶アンバサダー「やべーばや」特別賞)

大人になると、魔法が使える。
気持ちが高まると高まる、魔法の飲み物。
快適に、速く移動できる、魔法の乗り物。
でも、使い方を間違えれば、全てを失う。
飲酒運転はしない、させない、許さない。
正しく魔法を使える大人に。

(広尾高校1年(当時) 浅野 航希 さん)



す。
同プロジェクトは昨年発足し、トヨタ自動車や日産自動車など、国内自動車メーカー9社などが協賛している。いすゞは商用車メーカーとしての唯一の参画しており、いすゞの相川貴之コーポレート部門VPは「安全を思う気持ちは乗用車も商用車も変わらない。実際に体験してもらい、事故防止に向けた意識が社会に広がってほしい」とイベント開催の意義を話した。

令和8年 飲酒運転根絶！高校生メッセージコンクール

作品募集集中

作品募集集中

「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」を道民の合言葉として定着させ、北海道(公社)北海道交通安全推進委員会

から飲酒運転を根絶する、その願いを道民みんなで実現していくため、

では「飲酒運転根絶！高校生メッセージコンクール」の作品を募集しています。100文字程度の高校生らしいメッセージをお寄せください。なお、入賞作品は、全道及び地域FM等のラジオにおいて放送する等、様々な機会に活用させていただきます。

▽応募方法

北海道交通安全推進委員会のホームページから直接応募できます。

(※郵送、FAX又はメール可)

▽お問い合わせ
北海道交通安全推進委員会
電話：011-221-6666



令和8年度交通安全ファミリー作文コンクール

作品募集中！

止まれ570p

作文の題材
家庭をはじめ、学校、地域等において交通安全について考え、話し合った内容や方法、その結果実行していることなどを作文に書いて応募してください。

応募期間 令和8年7月3日(金)～9月11日(金) ※当日消印有効

応募区分 ●小学生の部 ●中学生の部

賞	受賞者数 表彰区分	最優秀作	優秀作	佳作
		内閣府大臣賞 交通安全賞	国土交通大臣賞 交通安全賞	警察庁長官賞 交通安全賞
小学生の部	1点	各学年1点以内	1点以内	各学年3点以内
中学生の部	1点	各学年1点以内	1点以内	各学年3点以内

副賞 図書カード

表彰 最優秀作受賞者は、令和9年1月開催予定の交通安全全国運動中央大会において表彰する予定です。優秀作及び佳作受賞者については、主催者から表彰状等を送付します。

入賞作品の公表 入賞作品は、警察庁ウェブサイト「交通安全ファミリー作文コンクール」に掲載します。

主催：警察庁、(一財)全日本交通安全協会、(公財)三井住友海上損保財団、(一財)日本交通安全教育普及協会
協賛：内閣府、国土交通省、国土交通省交通安全協会、国土交通省交通安全協会、国土交通省交通安全協会

お問い合わせ

●事務局 株式会社シムジック内「交通安全ファミリー作文コンクール係」
〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7 ニュー野村マンション101号室
TEL: 03-6912-9221 FAX: 03-6709-1871 E-mail: sakubun2026@nps.go.jp
●警察庁交通安全企画課交通安全ファミリー作文コンクール担当 TEL: 03-3581-0141
https://www.nps.go.jp/tu/area/traffic/sakubun/index.html

国土交通省は、ユーザーが好きな地域の図柄を自由に選択できる「ふるさと版」図柄ナンバープレート制度を導入すると公表した。遅くとも2029年度までの試行導入を目指す。全国78地域ですでに導入されている「地方版」図柄ナンバープレート制度の枠組みを活用する方針で、新制度の導入によって地域振興を促進する狙いだ。

検討会で取りまとめた図柄ナンバープレートに関する今後の方向性を6月30日に示した。

地域の特徴などをデザインに反映した地方版は、全国78地域で導入されている。地方版は、該当地域で登録された車両しか選択できないため、「(該当地域外のユーザーから)自由に選びたい」という要望が集まっていた(国交省)。

ふるさと版では、地域を限定せず、ユーザーが地方版のナンバープレートを自由に選択できるようにする。まずは選択できるプレートを2、3種類から開始し、段階的に増やしていく。最終的には全種類、選択できるようにする考えだ。乗用車を

対象とし、事業用車両向けは今後、検討していく。

また、希望番号に関しては、「7777」など人気の希望番号を取得しやすい方策を検討する。ユーザーが好みの希望番号を選択する「希望番号制度」の選択率は、登録車で約5割、軽自動車でも約3割に達する。北海道

そのため、抽選倍率が30倍の番号もあり、枚数の制限なく交付を行うと、特定の番号が早期に枯渇する可能性があるという。

公平性を保つため、新制度の導入を進める。抽選倍率などの情報をユーザーに事前に提供することで一部の番号に人気を集まることを避けるほか、人気番号を選択したユーザーには取得の対価として「寄付金」を求めることも検討していく。

知床599 あ20-46

苫小牧599 あ20-46

十勝599 さ20-46

出典：国土交通省ウェブサイト

「ふるさと版」図柄ナンバープレート

2029年度までの導入を目指す

国交省

2026年に撤退した整備事業者をみると、資本金「1000～1000万円未満」が115件で、全体の約4割となり最も多かった。個人事業主を含む「100万円未満」の107件を含む

2026年1～6月の自動車整備の休業・倒産

過去最多の295件

帝国データバンク

帝調

帝国データバンク(TDB)が7月8日発表した2026年1～6月の自動車整備事業者の休業・解散件数は295件だった。前年同期の186件から約4割増加し、過去最多を更新した。倒産(負債1000万円以上、法的整理)に至ったのは36件。合わせて半期で最多の295件が、自動車整備の現場から撤退したことになった。

TDBが「自動車一般整備業」または「自動車車体整備業」を主業とする企業の動向をまとめた。

2026年に撤退した整備事業者をみると、資本金「1000～1000万円未満」が115件で、全体の約4割となり最も多かった。個人事業主を含む「100万円未満」の107件を含む

改正自動車運転処罰法が施行

飲酒量に数値基準

衆院法務委員会は6月24日、危険運転致死傷罪の適用要件を見直す自動車運転処罰法などの改正案(参院先議)を全会一致で可決した。超過速度や飲酒量に関する数値基準を導入する。25日の衆院本会議で可決、成立し、7月21日から施行された。

これまでの規定では曖昧な表現にとどまるため、適用の判断にばらつきがあった。改正案は最高速度60km/h以下の一般道で「時速50km/h超過」、高速道路などでは「同60km/h超過」を基準とした。飲酒は呼気1リットルあたり0.5ミリリットル以上などが対象となる。

これらの基準を下回る場合でも「重大な交通の危険を回避することが著しく困難な高速度」などで死傷事故を起こした場合には同罪を適用できる。意図的なドリフト走行も処罰対象に加えた。

衆院法務委は付帯決議を採択。(1)新たな数値基準について必要に応じて適正化を図る(2)運転中にスマートフォンや携帯電話を使う悪質な「ながら運転」について危険運転致死傷罪の適用対象に加えることなどを検討するよう求めた。

喜谷会長と懇談する自工会・佐藤会長(右)



また、佐藤会長は「特に整備分野は現場に一番近い人に聞かないと分からない。やっぱり自動車メーカーとディーラー、整備事業者では幅広く同じ景色を見ているようで違う。これをつなげていかないと絶対に問題は解決しない」と指摘。整備士不足をはじめとする業界課題に対しては、自動車の製造と販売、サービスの連携強化が欠かせないとの認識を示した。

自工会の佐藤恒治会長

日整連懇談会に初出席

整備士不足など業界課題へ連携強化

「しんらい」と「あんしん」をお届けします。

北自共の総合自動車共済・自賠責共済

全道に安心のサービス拠点

示談交渉サービス

相手方との示談交渉や書類作成など一貫して対応

充実のロードサービス

24時間365日対応・等級に影響なし

顧問弁護士

訴訟対応への協力体制で事故解決へ

旭川 北見 札幌 釧路 帯広 室蘭 函館

あんしん・ゆとり・たすけあい みなさまのカーライフをサポートします!!

北海道自動車共済協同組合

〒065-0030 札幌市東区北30条東1丁目3-2

011-721-5233 FAX:011-721-0801

電話の受付時間 平日 9:00～17:15 https://www.hokujikyo.jp

新しい技術と信用のトップメーカー

自動車ナンバープレート

小松自動車工業株式会社

札幌営業所 及工場

札幌市東区北30条東1丁目1-1

〒065-0030 電話 011-752-8592(代表)

本社 及工場

東京都品川区東品川4丁目8番12号

〒140-0002 電話 03-3474-0211(大代表)

札幌

室蘭

第752号

道央各地で街頭検査を実施

北海道運輸局

北海道運輸局は6月、道央各地で街頭検査を行った。

岩見沢市の国道12号上幌向駐車帯では、6月11日に街頭点検を実施した。大型車のホイール・ナット点検のほか、不正軽油検査と無車検車両取り締まりも行った。

ホイール・ナット点検では、検査車両11台のうち1台で左側前後輪のナットすべてに緩みを確認し、現地で増し締めした。

不正軽油検査では全6台中、不適合車両はなかった。無車検取り締まりでは、カメラで認識した1662台のうち1台が無車検だった。

当日は、同局と札幌開発建設部、北海道空知総合振興局の3機関合同で取り締まりを実施。札幌開発建設部は、道路を違法に利用する車両の排除と適正な利用の促進のため特殊車両（一定の重さ・大きさを超える大型車両）2台を計測し、うち1台



苫小牧の夜間街頭検査では整備命令を発令した

また、6月23日には国道275号江別市角山駐車場で札幌開発建設部と合同の脱輪事故防止の街頭点検を実施した。大型車2台のホイール・ナットを点検し、いずれも緩みは確認されなかった。同部は、特殊車両1台を計測したが、違反はなかった。

セーフトウン北海道の一環で飲酒運転根絶の啓発

あいおいニッセイ同和損害保険

あいおいニッセイ同和損害保険は、交通安全対策七者連絡協議会と札幌方面中央警察署が行った「無事故の日における飲酒運転根絶街頭啓発」活動に協力した。同社が展開する「SAFE TOWN北海道」の一環として、札幌トヨタやAGHTヨタ札幌、あいおいニッセイ同和損保札幌支店プロ会など10社から40人ほどが参加した。



自動車ディーラーなども参加して飲酒運転の根絶を呼び掛けた

ディーラー社 夏を楽しむ！キャンピングイベントを開催

ネットトヨタ道都（内間木忠行社長）は、「とれた小屋ふじいキャンプ場」（札幌市北区）でキャンピングイベントを開催した。既納客を中心に45組・約150人が参加した。来場者はチェックイン後テントを設営し、体験プログラムに参加した。



ネットトヨタ道都のキャンピングイベントの様子

活動は、6月25日（無事故）の日に合わせて「飲酒運転をしない・させない・許さない・見逃さない」を合言葉に、街頭で飲酒運転根絶を呼び掛けるチラシやうちわを歩行者に配布した。

ステージイベントでは、ジャグリングやバルーンのパフォーマンスをはじめ、アイドルやシンガーのライブ、抽選会、チャリティーオークションなどを企画し、家族そろって楽しむ光景がみられた。かき氷のキッチンカーや鹿肉の試食・販売コーナーなども設置し、好評を博した。

録 語

国土交通省 物流・自動車局 猪股博之次長
「自動運転は15年以上前から『すぐできる』と言われてきたが、なかなかそう簡単には実現できないのが現実だ。

米ウェイモなどは自動運転領域に莫大な投資を行っているが、日本に同じことができるのかというとなかなか難しい所もある」

「日本メーカーでは、人工知能（AI）を活用し、自動運転の性能を高めていくケースが増えてきた。AIによって、かなり人間の運転や考え方に近い動きをできるようにしてきた。ここから1、2年が非常に大きな転換期になってくるだろう」

営した後、さまざまなプログラムに参加した。

ステージイベントでは、クイズ大会やテツ and トモのお笑いライブ、抽選会を企画した。子ども向けには、クワガタ採取やフォトフレーム作り、日本自動車連盟（JAF）による「子ども安全免許証」発行、クイズラリーなどを用意した。野菜や果物を販売するマルシェコーナーやキッチンカーも設置した。

会場内の駐車場で、デリカD:5と「トライトン」を使用した45度の登坂同乗体験を実施し、順番待ちができるほど人気を集めた。イベントは両社ともに7月4、5日に実施。好天に恵まれ、参加者は短い北国の夏を楽しんだ。



北海道三菱はイベントでD:5での登坂同乗体験を実施

セルフガソリンスタンド向けにAI給油監視システム

人手不足に対応

ガソリンスタンド（給油所）の関行ってきた実証実験で得たデータを基に、AIを高度化。担当者は「学習が完了した状態のため、さまざまなリスク行動を検出できる」としている。同社の仕組みでは、携行缶への給油や火気の発生などを検知できるという。

タツノ（東京都三田区）は、クラウドと連携するAI給油許可システムを市場投入しており、7月中にも給油所に実装する予定。

コスモ石油マーケティング（同中央区）も5月に、全国のセルフ式給油所にAIシステムを導入する方針を明らかにした。

各社のシステムは映像やセンサーを通じて情報から、AIがリアルタイムで来店客の給油作業をチェックして判断していく。トラブルなどが生じた際はスタッフに知らせ、対応する仕組みになっている。スタッフは監視し続ける必要がなくなるのが、給油所にとっての利点になる。監視や給油許可を行っていた従業員を別の業務に割り振ることも可能だ。

ただ、各社のシステムは高額なため、導入に踏み切れない事業者もありそう。ある給油所の経営者は「初期コストが1000万円前後必要な場合もあると聞いている。経営状態を考えると厳しい」と漏らす。そもそも、セルフ式では夜間は1人で運用しているところも多い。AIシステムだけの業務はできないことから、根本的な人手不足の対策にはつながらないとの意見もある。

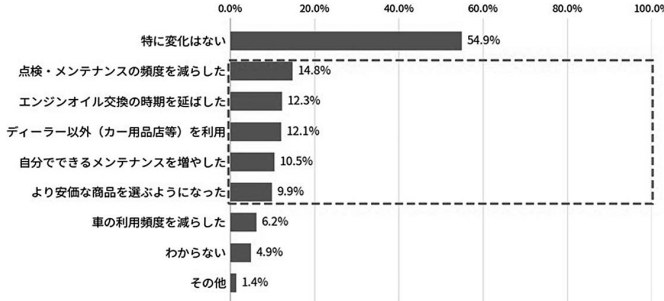
資源エネルギー庁が24年度に行った調査によると、「従業員の確保」に悩む給油事業者の割合は56%だった。これは「燃料油販売量減少」（約71%）に次いで高く、給油所各社にとって人手不足や省力化が急務であることを裏付ける。安全性を担保した上で、もう一段の対策も求められそうだ。



AI給油監視システムに用いる関連機器（写真はトキコシステムソリューションズの展示）

ユーザーの7割がオイルや整備費値上がりを実感 BPカストロール調査

BPカストロール（東京都品川区）が7月10日に発表した「ドライバークラウド意識とメンテナンス行動調査」によると、ユーザーの7割超がエンジンオイルの交換やメンテナンス費用の高騰を実感している実



物価上昇を受けて車のメンテナンス行動に変化はあったか

態が明らかに変わった。さらに、4割以上がオイルの交換時期を延ばすなど、何らかの形で対策していることも分かった。中東情勢の悪化で、一部の油脂類や補修部品が供給不足になっている。値上げの動きも出ており、ユーザーの行動に影響した可能性がある。

同調査は20歳以上で車を所有している男女を対象に6月、インターネットで実施。486人から回答を得た。

費用が高まる中でもメンテナンスを気に掛けているユーザーが多いのは、性能や安全性へのリスク意識が高いのが一因とみられる。例えば、メンテナンスを先延ばしにした場合に51・2%がエンジン故障、42・8%が突然のトラブルに不安があるとしている。

また、車のメンテナンスの考え方は、「できるだけ費用を抑えたいが安全性にかかわる部分は維持したい」が60・3%、「費用が高くて実行されてもモデルケースとなって横展開されることにつなげたい」と述べ、レベル4でのバス運行に期待感を示した。政府は30年度に、自動運転レベル4のバス、タクシー、トラックが合計1万台運行される目標を掲げている。

また、レベル4の国際基準が合意されたことに関して石原局長は「国交省としては国産の自動運転システムの方が望ましい」とした上で、日本の自動車メーカーや自動運転システム開発会社が「国際基準をうまく活用して自動運転システムを開発してほしい」と述べた。新しい国際基準では、自動運転システムの相互認証制度を採用するため、日本メーカーが開発した自動運転車が輸出しやすくなる。

自治体で相次ぐ自動運転バスの実証見送り 見込み立たないケースも

国土交通省の石原大物流・自動車局長は定例記者会見で、自治体が自動運転バスの実証実験の計画を相次いで断念していることについて、2027年度に自動運転「レベル4」（条件付き完全自動運転）の実装見込みが立たないケースがあることを要因に挙げた。自動運転システム関連技術が急速に進化しているため「どのシステムを採用するのかなど、立ち止まっているケースもある」とした。

自治体を対象に自動運転バスの実証実験に補助金を支給する事業につ

用を抑えようとする動きが目立った。また、「ディーラー以外を利用するようになった」（12・1%）、「自分でできるメンテナンスを増やした」（10・5%）など、入庫先を変えようとする動きもあった。

回答者の54・9%が行動に「特に変化はなかった」ものの、これは車のメンテナンスを重要視しているユーザーが多いことの裏付けとも言えそう。実際、エンジンオイルの交換時期に関して、推奨時期や走行距離の目安を「必ず意識して交換している」（30・2%）、「ある程度意識」（38・9%）と計69・1%を占めた。

安全性や性能維持を優先したい」が20・2%で、合わせて約8割が安全性を優先する意向を示した。しかし、オイルの交換時期を過ぎて運転した経験があるユーザーは56・0%いるなど、あまりにコストが高まればユーザーが行動を変えざるを得ないケースが出る可能性もある。同社は「推奨時期を意識したオイル交換が、結果的に大きな出費を防ぎ、安全で経済的なカーライフにつながる」と呼び掛けている。

同調査は7月10日の「潤滑油・オイルの日」に合わせて公表した。

と省 産境 環境 自動車リサイクルの取り組み強化 重要資源の国内循環を目指す

経済産業省と環境省は、自動車由来の資源の国内循環を促すため、2026年度中に複数の作業部会を立ち上げる。使用済み自動車（ELV）の判別ガイドラインの見直しや、車載電池を適正に処理する体制の構築といったテーマを対象とする。資源循環の重要性が高まる中、重要鉱物をはじめとする資源の海外流出などの問題に取り組み、制度やガイドラインの改定につなげる。

■自動車リサイクル制度の報告書案を提示

経産省の産業構造審議会と環境省の中央環境審議会が、自動車リサイクルについての合同会議を開いた。会議では「自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書案」を提示し、今後の検討課題について話し合った。

会議を踏まえ、両省は26年度中に複数の作業部会を立ち上げる方針だ。

作業部会で話し合うことになったのは①ELVの判別ガイドラインの見直し②車載電池の適正処理③の2つ。26年度内に結論まで得られるかは「まだ分からない」（担当者）としつつ、検討内容を年度末の合同会議で報告する方針を固めた。

■中古車流通や電池リサイクルに照準

不適切な保管による火災や騒音などのトラブルを防ぐため、使用済みの金属やプラスチックなどのスクラップを屋外で保管する「ヤード」事業を都道府県知事による許可制とする改正廃棄物処理法がこのほど成立した。28年中に施行される見通しだ。

鈴木修氏の名言をかるたに 「語録かるた」発売

スズキは、鈴木修元相談役の「語録かるた」を6月26日に発売した。鈴木元相談役の言葉や考え方をまとめた語録を基に制作した。

かるたの絵札は社内のIT本部が手掛けた。社員が考案したグラフィック案をもとに、人工知能（AI）を活用してデザインした。絵札にはスズキのコーポレートカラーである

青と赤を採用した。子ども向けと大人向けの2種類を販売する。大人向けの絵札には鈴木元相談役やスズキ車をリアルに描いた。子ども向けの絵札は動物をモチーフとし、読み札には語録を子どもにも理解しやすい表現に改めて採用した。例えば「いそがしくて死ぬ暇

報告書案では「不適正スクラップヤードや廃車基準等に関する国内外の議論を注視した上で、装備変更をした事実や事前回収物品を回収した事実を確認できる証憑（しやうひょう）の保存や、廃車ガラ輸出時の証明書類の提示の徹底を求める等の追加的な対策について、今年度から検討を開始するべき」などと提言した。

自動車リサイクル法の完全施行から20年が過ぎた。足元では、特定国に依存しないサプライチェーン（供給網）構築への機運も高まる。政府は資源の国内循環を阻むさまざまな課題について議論し、取り組みを加速させる。



大人用と子ども用はイラストや解説などが異なる（右が子ども用）

電動化に続く軸として、ソフトウェアや人工知能（AI）などが自動車産業の競争力を左右する時代。ハードウェアの大事さは前提に、各社はIT人材の獲得や新会社設立、新規事業への投資を急ぐ。一方で見落とされがちなのがガバナンス。最近では業界を問わず、経営幹部や責任者による金銭絡む不祥事が相次ぎ、「成長を急ぐ組織ほど統制が後手に回る」という課題が改めて浮き彫りになる。先日もある会社で子会社トップが解任された◆新規事業は意思決定スピードが重視され、権限が特定の人に集中しやすい。特に設立間もない組織で

はない」は「いそがしくて死ぬ暇がない」としている。また、読み札の裏面には語録の背景や解説を掲載する。

スズキは、語録をかるたにすることで、鈴木元相談役の人生観や考え方を社員が親しみながら学べるツールとするほか、社外向けにはビジネスや生活、学業のヒントとして活用してもらうことを狙う。

価格は大人向け、子ども向けともに1980円（消費税込み）。スズキ歴史館で販売するほか、順次スズキ公式ECサイト「Sモール」や各種イベントでも取り扱う予定だ。